

いわき市立桶売小学校「学校だより」

平成30年3月9日(金) 第44号

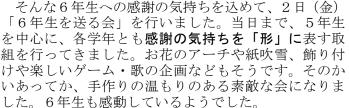
<教育目標> ☆進んで学ぶ子ども(知) ☆健康でたくましい子ども(体) ☆みんなで助け合う子ども(徳)

発行者 校長 本名 武



感謝と寂しさと「6年生を送

みんなから、いつも頼りにされる6年生。 あんなふうにと、憧れをもたれる6年生。 みんなが大好きな、ただ一人の最上級生。



うれしい春とさみしい春は、いつも背中合わせです。

中学校でも、何でも自分から進んで行おうとする姿勢、その明るさ・思いやりの心で、未来を切り 拓いていくことを在校生・職員共々願っています。





あの目、世界が伝えた『

東日本大震災から7年になるのを前に、全校集会で 犠牲となった方々へ黙とうをささげ、当時の日本人の 姿とそのことを世界がどう伝えたかを振り返りました。

「まだ物が散乱しているコンビニ。人々は落ちている 食料品を拾い黙ってレジにならんでお金を払う。店側

も発電機で店内を照らし、レジを動かして黙々と対応している。・・・やがて、発電機の燃料がなく なり、店内が暗くなると、人々は持っている品物を棚に戻し、静かに店から出て行った。」

「何十kmの気の遠くなるほどの交通渋滞、永遠に続くかと思われた時間の中で、しかし、私は目的地 に着くまでただの一度もクラクションを聞かなかったことに今驚いている。」: ワシントンポスト紙

外国では、災害につきものの「略奪やうばい合い」が見られないこと、怒鳴り声の代わりに口から 出てくるのは「ありがとうございます」「すみません」の言葉。山のように買い占める者も便乗値上 げする者もいない、むしろ、値を下げている店があるほど。配給の行列に割り込む者はいない、そし て配給後の広場にはごみ1つ落ちていない・・・外国の記者は、その姿を目にして涙が出たと言いま す。記者は「大震災で日本は全てを失った。しかし、何にも勝るものが日本には残っている。それは 日本人そのもの」と書き、留学生は「日本に留学していたことは一生涯の誇りだ」と述べています。

最後の最後に残るのは国民性「人間性」なのだと子どもたちに話しました。困っている人がいたら 手をさしのべる、思いやりの心をもって誠実に人に接する、人のいやがること・迷惑になることはし ない、当たり前のことを当たり前に行うことこそ、日本が世界に誇れる「日本の品格」。日本の、そ 世界の未来を担う子どもたちに、今しっかりと伝えたいことです。

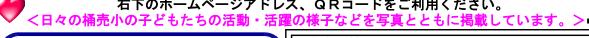


6日(火)春季全国火災予防運動に合わせ、平消 防署川前分遣所の方々に来校いただき、防火教室を開 催しました。周囲がよく見えない煙の世界に身を置き、 火災の怖さを体験するとともに、煙の中でパニックに ならずに身を守る知恵や心構え等を学びました。





右下のホームページアドレス、QRコードをご利用ください。



リアルタイム線量測定システムの数値(校庭) 0. 092 u SV/h 3/9 11:40

(文部科学省HPの放射線モニタリング情報) http://radioactivity.nsr.go.jp/map/ja/

桶売小学校 電話0246-84-2230 Fax0246-84-2240 在籍児童数 男6名 女4名 計10名

※ 新しくなった桶売小肥アドレス http://www. iwaki. gr. fks. ed. jp/?page id=98 ※ 新しくなった右記のQRコード

